

2010年7月15日

…というのが私のいた句会の先生の教えての一つでした。お孫さんを持つ老婦人の会員が多かったせいもあるでしょう。

作者自身が孫にのめり込んでいますから、句の切り込み・突っ込みがあまくなるし、すでに秀句がたくさんあるから、という戒めだったのでしょうか。
子規が、神社仏閣を詠むなど書いている俳句作法の中にも、そんな趣旨のことがあったように、おほろげな記憶があります。
でも、私は、こんな形で詠みました。

／ ポケモンもガンダムもいて雛の家 ／

／ ふりかけはポケモン印梅雨晴れ間 ／

／ 祭笛ガンダム射つてと子がせがむ ／

アニメのキャラクターと深く関わりあって毎日を生きているのが、今日のこども達です。

その姿は楽しいし、喜劇的で、親に嫌がられても、のめりこんでいるサマは滑稽でもあります。コトバの綾や地口に苦労せず、それを詠むのも滑稽俳句ではないか、と私は考えています。

(時季はずれますが)

／ 着膨れてアンパンマンと泣き寝入り ／

・・・した孫の可愛らしかったこと、また、滑稽な寝姿でもありました。とはいえ、こういう状況に恵まれていない方もいる。となれば…はてさて、自分本位の見解になりましたかねえ？

／ 蟬時雨子は担送車に追いつけず ／

…は石橋秀野さんのです。

余談ですが、たしか、あの高橋健吉さんの奥さんであったと思います。 こどもが主

役の句で、映画の一シーンをみるようです。また、担送車の枕から、こどもをみつめている作者の視線もみえ、結局、母親の心情のあらわれている句でしょう。

この句を想い出すたびに、目がうるうるしてきます。このどこが滑稽句なんだと叱られそうですが、生活の日常をみつめることでしか滑稽句は生まれない、といいたいのですが…。

／ 日光にあと一駅や花菜漬 ／

…旅の途中の一句です。弁当の中の花菜漬が、少し漬けが浅く、納得のいかない味でした。おりから、間もなく日光という処。 JRの駅では、次が日光で、ここが今市駅。秀野さんの句に較べれば、ホントに気軽な句なんですが…